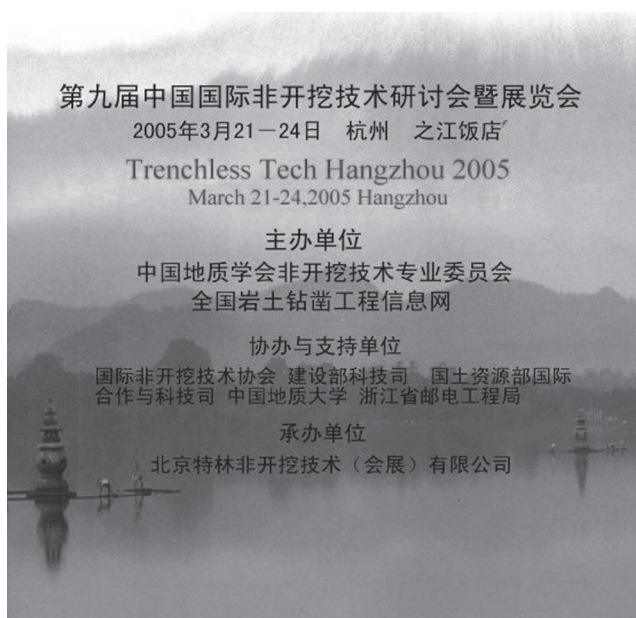


第9回中国非開削技術協会 技術検討展示会 in 杭州に出展して

池田 昌司
IKEDA Masaji

ラサ工業(株)
機械事業部土木機械営業部
海外営業課係長



展示会のパンフレット



第9回中国非開削技術協会技術検討展示会が、3月21日～24日に浙江省杭州市の杭州之江飯店で開催され、日本からはラサ工業が展示及び技術発表に参加しました。この展示会は毎年この時期に上海・北京・広州などで開催されていますが、今年は杭州市で初めて開催されました。

展示会が開催された杭州市は、上海から200kmほど南西に位置し海岸にも面した、中国浙江省の省都、人口600万人の中核都市で、山・湖・泉・庭園に囲まれた古都です。昔から“上有天堂,下有蘇杭”直訳すれば『天上には極楽あり、地上に蘇州・杭州あり』と喩えられてきました。13世紀には『世界で最も美しく華やかな土地』とマルコポーロが書いた通り繁栄をきわめました。市の中心部（杭州駅から西へ2km）

には西湖と呼ばれる昔から詩にもうたわれた美しい湖があります。杭州が“地上の天国”と言われるのは西湖に負うところが大きく、湖周辺には風光明媚な名所と言われているところが多く点在しています。代表的なものは“西湖十景”として知られています。また唐の白楽天、宋の蘇東坡もこの地の役人を務め、西湖の水利事業に力を尽くしたといわれ、二人の名のつく堤防“蘇堤”と“白堤”が西湖に残されています。他に歴史上の人物の墓や寺院、塔も多く残され、中国屈指の景勝の地として有名です。

現在、中国はGDPが毎年10%近く成長しており、全世界が注目するマーケットであることは言うまでもありません。上下水道・電力・ガス・石油などのパイプライン工事も開削から非開削へと変貌してきてお



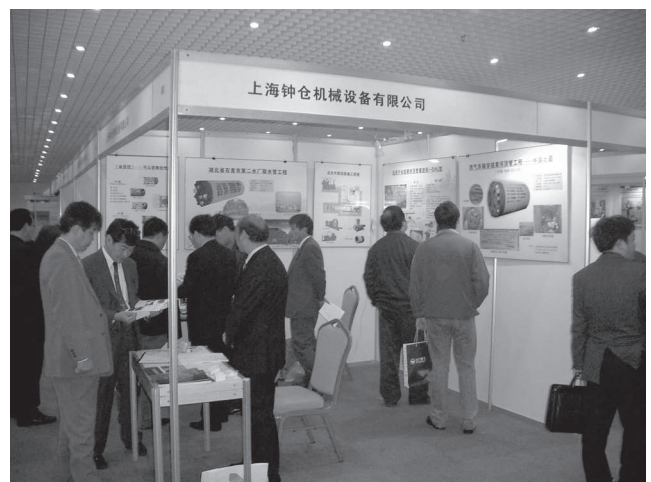
開会式の様子



研究発表会の様子



屋外展示会場の様子



屋内展示会場の様子

り、パイプライン工事に於いても急成長が見込まれています。ちなみに2004年の非開削工事の伸び率は前年比50%増と急激に成長しています。

2004年度、中国国内市場状況の説明では、中国の非開削工事はHDD工法が主流ということです。昨年度のHDDマシン販売台数は470台（海外からの輸入は47台）と言われ、2004年までの統計では1425台のHDDマシンが導入された事になり、HDDマシンの保有台数はアメリカに次ぐ世界第2位となっています。

日本で非開削工法の代表であるセミシールド工法は、中国では昨年度の販売台数は82台（海外からの輸入は7台）、2004年までの統計では235台のセミシールド掘進機が保有されています。又、中国でも管の更正技術が導入され、2004年までに220kmの管の修復工事が行われ、日本と同じ様に管更正技術は急激に進歩しています。

この展示会でも技術発表会には機械メーカーの新技術紹介や、施工会社による特殊施工実績の紹介などが2日間（10数社）にわたり行われました。ラサ工業で

は小口径機種（DHFS型）での岩盤・巨礫対応機の新商品説明及び海外での施工事例などの説明を行いました。技術発表会の参加者は中国各地の非開削工事に携わる会社の技術責任者や、大学などで非開削技術を開発研究している教授や学生などで200名以上が参加登録し、熱心に講義を聞いていました。

展示出展者は約30社でHDD工法の機械の展示、又はHDD工法関連の位置検出装置などの展示が主でした。展示会への総来場者はCSTT事務局の正式発表で、1000人以上とのことでした。弊社は中国代理店の上海鐘倉機械設備と合同で掘進機関連のパネルを展示して約220名の来場をいただきました。今後、掘進機の導入を計画しているユーザーからの相談、礫・岩盤などの過酷な土質であるため他工法で施工困難な土質への対応方法などの相談があり、掘進機への関心の高さも覗えました。

今後さらに市場の拡大や技術の向上が見込める中国市場で、日本の非開削技術が採用されるよう中国市場を研究し営業展開をして行きたいと考えています。